

副 議 長 休憩を解いて再開します。 (10時15分)

受付番号第7号、武尾哲治君の一般質問を許します。登壇願います。

2 番 武 尾 おはようございます。議長のお許しを得て質問をいたします。受付番号第7号、質問議員、第2番 武尾哲治。件名、A I オンデマンドバス「のるーと足柄」事業が持続可能となるために。

3年目をめどにしたA I オンデマンドバス「のるーと足柄」の実証実験が行われており、来年度は2年目となります。路線バスの減便も予定されるなど、将来的に公共交通はA I オンデマンドバスに頼る場面がますます増えることが予測されます。そのためにも、この事業を持続可能にする必要がありますので、以下を伺います。

(1) 現在の利用状況について。

(2) 収支の状況について。

(3) 来年度の目標と計画について。

以上、よろしく願いいたします。

町 長 それでは、武尾議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

まず、A I オンデマンドバス「のるーと足柄」の実証実験につきましては、本町において65歳以上の高齢者人口のピークが過ぎている一方、高齢化率は上昇傾向である中、今後、高齢者の免許返納や若い世代のマイカー運転機会の減少などにより、様々な年代の移動需要に対応した公共交通サービスを進めていくため、町地域公共交通会議での協議において、新モビリティサービスの必要性などのニーズ調査を行い、その調査結果において、新たなモビリティサービスの導入希望への意見が多かったため、町地域公共交通計画案において、基本方針や目標の中に位置づけ、令和5年10月23日からA I オンデマンドバスの実証実験を開始しております。

これは、町民の生活圏内における既存交通を補完し、多様なニーズに柔軟に対応できる新たな移動サービスとしてA I 活用型運行システムを採用した路線バスとタクシーの中間に位置する新たな乗合バスの交通施策となります。この事業は、2026年までの3年間を実証実験期間と位置づけ、運行における課題の

洗い出しや整理を行い、本町に合った公共交通スタイルを確立していくもので、路線バスを補完しながら、今までサービスが行き届かなかった地域や時間帯をカバーすることができ、町内等に設置する乗降場所も多く、利用者の自宅の近くにて乗り降りできるようにしております。本事業は、乗客8人乗りのワンボックスカーを使用し、令和5年10月23日からバス2台、11月1日から2台を追加し、現在、合計4台にてA I オンデマンドバスの実証実験を行っております。

では、1つ目の御質問にお答えいたします。利用状況につきましては、11月から2月末までの利用状況を申し上げますと、1日当たり平均利用者人数が、11月が68、12月が77、1月が76、2月が62となっております。定額制パスポートを持っている方の利用の割合が約6割、それ以外の利用者は約4割でございます。「のるーと足柄」に利用登録いただいている人数を見ますと、10月23日の開始時点で261人、10月末で378人、11月末で635人、12月末で759人、1月末で971人、2月末時点で1,076人となっております。着実に増加しているところがございますが、ニーズ調査を基にした当初の見込みと比較すると、約20%ほどとなる状況ですので、今後も登録だけで終わることなく、乗車していただくよう、周知活動を強化してまいります。

次に、2つ目の収支状況について申し上げます。令和5年度末の収支見込みでございますが、収入として町からの委託料が5,500万円と、当法人へ利用者からの運賃収入の3月末までの見込みといたしまして約5か月間にて約400万円と、そのほか、本事業への協賛、賛助金等約600万円を合わせて合計収入として6,500万を見込んでおります。支出といたしましては、運行システム構築費やミーティングポイントの設置料、車両4台の運行委託料や燃料費、システム利用料、運営に関する事務費等として、令和5年度末総額で約9,300万を見込んでいることから、令和5年度事業の収支は、約2,800万円ほどのマイナスとなる見込みでございます。なお、このマイナス分につきましては、一般社団法人足柄オンデマンドが負担することになりますが、開業半年間は初期投資がかかっていることもあり、これから本格的に利用者が増えることでマイナス分を徐々にプラスに転換していくものと見込んでおります。

3つ目の御質問にお答えをいたします。まず、現時点での収支だけ見ますと、デマンドバス運行の継続が非常に厳しい状況でございますので、この半年間の結果を踏まえ、持続的な運行に向けて随時運賃の見直しや車両台数及びバス停等の再検討を行うとともに、4年目となる令和8年度からは完全自走する事業として、利用者の目標数値やそのほかの収入増加に向けた事業計画を定めてまいります。

本システムの乗車人数については、2月末現在までで約8,500名となり、1日1台当たりの利用平均人数は約20人でございますので、令和6年度末までには約8万6,000人とし、1日1台当たりの利用平均を約60人まで増やすことを目標と掲げております。事業計画においては、現在町民や利用者からの御意見、御要望を踏まえて、松田町と大井町の一部で運行しているところではありますが、それに加えて、開成町を運行エリアとして拡充していくことを想定しております。これからは、開成町や関係機関との調整を進めていきたいということになります。また、利用者からの要望が多い乗車時のキャッシュレス決済への対応、定額制パスポート以外の利用者アップ、車両への広告収入増への営業活動強化などに取り組んでまいることとしております。以上でございます。

2 番 武 尾 ありがとうございます。それでは、詳細等の再質問をさせていただきます。まず、現在の利用状況についてなんですが、この事業の当初行われていました町民に対するアンケート等を取ったときのニーズとですね、運行を始めてから得られたデータのニーズの違いは何かございましたでしょうか、お聞きします。

参事兼政策推進課長 それでは、お答えをさせていただきます。まずですね、この新モビリティ推進事業につきましては、その前にですね、アンケート調査をかけております。配布的には1,100世帯にですね、配布をし、回収率561世帯ということで、回収率51%というような状況でございます。

併せてですね、出口調査というのもやっております。その現地に買い物あるいは病院等に行きまして、どのくらいニーズがあるかというような調査をさせていただきました。その中でですね、今後の交通手段への将来的な不安、不満ということはどうですかといったときにですね、全体的には60.8%が不満であると、不

安であるという回答で、中でもですね、寄地区、神山地区では77%と非常に高い数値になったところがございます。

またですね、新モビリティサービスという事業の導入についてどう思われますかということで、こういうサービスをしますよというアンケートをさせていただきました。その中でですね、特にやっぱり寄地区と神山地区においては、70%という非常に高い数字を占めております。

またですね、会員制の必要性、会員制みたいなのがあったらいいですかというのを聞いたところですね、おおむね95.6%がそういう会員制が欲しいですということでございます。

出口ヒアリング調査というのをやりました。例えばですけど、大井町のヤオマサに行って、その出口調査もいろいろやりました。そこには大井町さんの方もいるし、松田から来てる方もおられましたので、そうした方で、特にいろんな調査したところ、やっぱり通院、買い物について、特に足柄上病院とスーパー3店、大井町を含む形では、非常にニーズが多いということがございましたので、それを含めて地域公共交通会議の中でですね、新たな事業としてこの新モビリティ事業を始めたところでございます。

それでですね、この5か月間ほど実施してきました。このようなニーズの下に運行ポイントを定めてですね、やっていました。ニーズの分析をしますと、乗車状況におきましては、一番多いのが新松田駅ですね。そして、次がヤオマサ大井町店、3番目がレストフルヴィレッジというような形で利用者のニーズがございます。降りるところにつきましても、やっぱり新松田駅、2つ目が、2番目がレストフルヴィレッジ、3つ目にヤオマサ大井町店で、4つ目にクリエイト松田店というような状況になっております。当初ですね、そういう形で多くの方が乗っていただくという条件の下にポイントを定めてやっておったところ、状況的には、やっぱり駅が一番多いということがございました。その辺でですね、今後もやっぱりその新松田に降りてその後の確認をしたりですね、ニーズを確認しながらですね、いろんな形で調査分析をしていきたいというふうに考えております。以上です。

2 番 武 尾 今のお話をお聞きしますと、当初アンケートで予定というか、してありましたお買い物とか通院のお客様より、いわゆる現役世代で利用する、通勤・通学で利用される方が思ったより多かったというようなことだと思います。それに伴いですね、もう一つお聞きしたいのが、12月の議会で寺嶋議員が質問した際には、11月20日現在でパスポートの登録件数は51件という回答がございました。現在のパスポートの登録者数と、またその内容、現役世代が多いのか、それとも御年配の方が多くのか等、分かりましたら教えてください。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。パスポート登録数につきましては、12月末現在で61件になり、2月末現在、現状は67件というところになっております。全体を見ますと、シルバーパスというのがございます。65歳以上の方で1か月当たり3,000円というところが全体の52%を占めております。そのほかですね、ファミリーパス、同一世帯で1か月で6,000円というのがございます。こちらが67件のうちの全体の31%という比率を占めておりますので、やっぱり現役世代のシルバーの方がですね、非常に多いという状況になっております。以上です。

2 番 武 尾 ありがとうございます。やはりパスポートに関しては、あまり増えていないというような状況の中で、この事業はですね、パスポート収入と、また単体乗車の収入と、どちらに将来的にはウエートを置かれているのか、お聞きします。

参事兼政策推進課長 当初の見込み、ごめんなさい、当初目標がございます。こちらのときには、最初はですね、パスポートがですね、1,000世帯当たりを目標にしようというところがございましたので、主にそちらに重点を置いているというところがございます。ただしですね、今このような状況がございます。登録は少ないんですけども、例えば、普通のアプリに登録してもらってという方も年代層で分析しております。そうした方においてもですね、例えば60歳から70歳以上につきましては、登録していただいているんですけど、おおむね7割から8割が使っているという形の方が多いです。ただしですね、20代、30代、40代、50代の方もですね、登録のあるアプリは取ったんですけど、なかなかそこで使っていないという状況が多いです。全体では30%から40%ぐらいしか、登録しただけというところがございますので、このような分析を踏まえてですね、今後、どのようにその年代を含めて利用して

いただけるかというところを進めていきたいなというふうに考えております。以上です。

2 番 武 尾 どうもありがとうございました。それでは、次にですね、2番の収支の状況についてお聞きいたします。先ほどの御回答の中で、支出合計が9,300万とありました。これはちょっととても大きい数字であるのですが、これは、先ほどの答弁の中でも初期投資等があるよということでお話を頂き、この支出についてですね、今後は大体どのぐらい減少していくものなのかというのを、もし分かりましたらお聞きしたいです。

参事兼政策推進課長 ありがとうございます。まず初期投資につきましては、主にこのAIのシステムの構築費というのがございます。そちらが2,000万近い部分がございます。そういうものが減ってくるというところがございます。また、ポイントですね、ポイントも最初の設置するところが245か所ありますので、そういう費用につきましてもですね、400万近いお金のほうがございましたので、そういうふうなものが今後少なくなっていくという形になります。そのほかですね、当初見込んでたいろんな広告料とかいろんなものがあります。リーフレットがあります。そういう部分につきましても縮小する、減少するという経緯がございますので、金額的には、今幾らというのは言えないんですけど、そういうものが減ってくるという状況でございます。なので、それ以外にですね、全体を今回のを見ますと、支出のほうの中で、特にやっぱり運賃の、ごめんなさい、運行委託料ですね、その辺が結構予定の目標よりちょっと違ってましたので、その辺はしっかり法人等と連携をしながらですね、いかに抑えるかというところがございますので、その辺の削減に努めていく形になります。以上です。

2 番 武 尾 どうもありがとうございます。それでは、別の質問をさせていただきます。現在ですね、5か月で約400万円の運賃収入ということでしたので、これによりますと、約、年間で考えますと1,000万円の運賃の収入状況だと思います。今後、「のる一と足柄」を持続可能な事業にするためには、年間の運賃収入の目標は、大体どのぐらいで考えられているかを教えてください。

参事兼政策推進課長 ありがとうございます。6年度においてはということで、答弁のほうにもさせ

ていただきました。12か月間を含めてですね、8万6,000円を目指すという形になりますので、おおむね2,600万円ほどになります。今より1.5倍以上の。ただですね、これで満足することなくですね、6年度、7年度、本格運行までにはですね、さらに上げていくような形になると思いますので、それに対する収入の考え方とか、あと先ほど言った歳出をどう抑えていくとか、ポイントをどう見直すとか、車の台数を検討するとか、様々な取組を、課題が出てきてますので、それを、今年度見えたものを来年度に生かして計画をつくっていきたいというふうに考えております。以上です。

2 番 武 尾 ありがとうございます。確かにこの運賃収入の増加の主軸となるのはですね、利用者増が必要不可欠、当たり前なことなんですが、だと思っております。ただ、私の周りでもこのオンデマンドのバスの利用方法を知らない方がまだ多数いらっしゃいます。住民説明会はですね、10月21日を最後にして、11、12、1月は行われてなかったと思います。そして、2月は毎週水曜日午後に説明会を行うという広報での記載もございました。今後のこの説明会等の御予定がございましたら教えてください。

参事兼政策推進課長 ありがとうございます。まず、今年度、令和5年の4月19日から始めたPR活動でございます。先ほど説明されたとおりですね、令和5年の9月からですね、9月は計6回、城山地域集会施設ほかで行っております。5年の10月につきましては11回、様々な地域集会施設ほかでやっております。その後ですね、12月の20日午後1時からですね、スプラポの施設を活用しまして説明会をしております。その後、令和6年の1月24日、子育て支援センターでも行ってございます。また、周知につきましてはですね、ポスターの掲示をはじめ各飲食店等にも掲示をしながら行っているところでございます。また、産業まつりの出店時にもですね、ブースを用いて「のるーと足柄」の紹介、販売、そこでは1件のパスポートが契約ができたということも聞いております。その後ですね、令和6年度につきましては、今のところ3月、4月の説明会を予定をしております。3月は一応14日、4月は16日、30日というところで、また周知をさせていただいて幅広く進めたいと思います。ここににつきましてはですね、問合せ先がございますので、個

人的に説明してほしいということがありましたら、のる一との台車番号とかいろいろありますから、直接することもできます。例えば、大井町さんのほうにもですね、松田町が、私たちのほうが地域公共交通、大井町の地域公共交通に入っている事業だというふうに言われながらもですね、分からないよと言われたときには、出前出張をするということも言っておりますので、併せてそういう周知で取り組んでいきたいと思っておりますので、周知のほうは御協力をお願いしたいというふうには考えております。以上です。

2 番 武 尾 どうもありがとうございました。それでは、3つ目、来年度の目標と計画についてお聞きします。先ほど御回答頂きました、4年目からは完全自走する事業として「のる一と足柄」を推進していくためには、1日1台当たりの利用平均人数を約3倍に増やすという目標だということでした。来月のですね、4月から法律が変わりまして、ドライバーの拘束時間が短くなるかと思われまして。その影響を受けずにこの3倍にしていくというようなことの対応をどうお考えになっているかをお聞きします。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。まず、4月からという、恐らく改善基準告示が改正されますというようなことですね、いわゆる自動車運転士の業務、ドライバーにいわゆる上限規制を適用しますというような話だと思います。こちらにつきましてはですね、まず、バス運行につきましては、法人から各事業者ですね、バス事業者さん、タクシー事業者にお願いをして委託事業としてやっております。この辺の基準はしっかりですね、各バス会社さんが事前に会社としてこの規定に基づいて告示をするようになります。そして、その人を派遣していただくというところになりますので、もしこの辺の基準に満たない方については、入れ替えながら運用をするというような形になってきますので、その辺はしっかり確認をしながら進めていきたいというふうには今考えているところでございます。以上です。

2 番 武 尾 ありがとうございました。それではもう一つ、「のる一と足柄」という名前を名づけたということですね、この足柄地域全域を運行エリアにするような計画に将来されていると思います。今後、乗り入れる町からですね、例えば費用の負担金を頂くようなことについてはどのようにお考えになっているかをお聞きしま

す。

参事兼政策推進課長

ありがとうございます。現在ですね、大井町さんの一部エリアに入っています。まず、大井町さんのエリアに入るためには、町の地域公共交通会議に参加しなくてはいけないというのがあります。そして、私たちのほうが入って、説明をして、こういう形で、例えば大井町のヤオマサさんに行きますよというような話をして了解を得るところでございます。そうした中でですね、大井町さんのほうが、これはまだ調整はしておりませんが、大井町さんのほうも今後ですね、やっぱり地域ニーズがあるということを言っておりますので、その辺の負担については、今後協議会同士でですね、調整をしながら進めて、応分の負担も検討の一つとして進めていきたいというふうには考えております。また、大井町さんのほうも賛同を得てる、今得てるという状況じゃありませんけども、そういう意見は出てますので、併せて報告をさせていただきます。今後は、開成町にも拡充していきますので、その辺も含めて、応分の負担をとということを念頭に置きながらですね、やっぱり考えていかなければいけないと。それは先ほど言いましたとおりですね、運賃の見直し等も含めてですね、やっていかなくちゃいけない部分もありますので、やっぱり松田町の税金でやっている以上は、その辺も含めてやっていきたいというふうに考えております。以上です。

2 番 武 尾

ありがとうございました。この「のるーと足柄」、昨年からの立ち上げについては、素晴らしいスピード感で立ち上げられたというふうに見ております。今後はですね、運営とか経営に移ってまいることかと思えます。全国でもまだ症例の少ないこのAIオンデマンドバスの町民の期待はとても大きいものだと思います。この「のるーと足柄」を軌道に乗せて、より暮らしやすい松田町にするために、これからも御尽力いただきたいと思えます。以上で私の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

副 議 長

以上で受付番号第7号、武尾哲治君の一般質問を終わります。